

施策番号	1802		
施策名	子どもたちに「生きる力」を育む教育の推進		
概要	子どもたちの自尊感情や規範意識を高め、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育み、子どもたちが社会で自立して生き、豊かな人生を送ることができるよう、あらゆる教育活動を通して取り組む。		
担当局・部室	教育委員会・指導部	共管局・部室	
上位政策	18 学校教育		
施策に関係する 主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	平成 30年度	令和 元年度	令和2年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1 学力向上を支える京都市小中一貫学習支援プログラムに対する児童生徒のアンケート（3・4段階評価で概ね満足とした割合）評価値（%）	a	a	92.5	89.2	100	89.2%	a	1.00
2 「学校の規則を守っている」と肯定的に回答する児童生徒の割合（%）	b	b	94.5	95.0	96.1	98.9%	b	1.00
3 新体力テストの結果（項目数）	b	b	29	24	34	70.6%	b	1.00
4 通級による専門的な指導を受けているLD等の発達障害のある児童生徒数（人）	a	a	1,062	1,217	850	143.2%	a	1.00
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価	a	a					a	

2 市民生活実感評価

設問	平成 30年度	令和元年度	令和元年度					有効回答 者数	令和 2年度 ※	
			評価	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない			そう思わ ない
1 子どもたちが参加できる、さまざまな学びやスポーツ、体験活動の機会がある。	b	b	b	59 9.8%	263 43.7%	207 34.4%	54 9.0%	19 3.2%	602	-
2 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。	b	b	b	54 9.2%	201 34.1%	253 43.0%	47 8.0%	34 5.8%	589	-
3 -	-	-	-							-
4 -	-	-	-							-
5 -	-	-	-							-
市民生活実感調査総合評価	b	b							-	

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	A	令和元	A	令和2	A	施策の目的が十分に達成されている
重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	本施策の対象が京都市立学校に在籍する幼児・児童・生徒に限定されており、多くの市民にはその効果が実感されにくいものであるため、客観指標を重視する。				
	<input type="checkbox"/> 市民の実感					

<原因分析>

客観指標総合評価

- b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
- c評価以下であり、次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
- c評価以下であり、次の原因が考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業> (令和元年度又は令和2年度新規事業)

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・全小中学校において作成している「学力向上プラン」「小中一貫教育構想図」等のもと、「京都市小中一貫学習支援プログラム」等を活用して児童生徒一人一人の学習状況や課題を把握し、義務教育9年間の見通しを持った中で、自学自習の習慣化や学力の定着・向上を目指す。
- ・小中一貫教育の下で、道徳教育については、道徳の教科化を踏まえた研究・実践を進めるとともに、今後も全校で策定している年間指導計画等に明確に位置付け、学校教育全体を通じた「考え・議論する道徳」を推進する。また、宿泊・自然体験活動の充実等を通して、他人に共感する心や規範意識等、豊かな人間性を育むための取組を推進する。さらに、子どもひとりひとりの社会的自立に向け、問題行動の防止はもとより、望ましい生活習慣や規則を守るなど、規律と自律に基づく学校生活の確立を図る。
- ・全学年での体力テストとその結果を活用した「ジャンプアップ・プロジェクト」をはじめとする、学校での体力向上に係る取組を充実発展させることにより子どもたちの体力向上を図る。
- ・就学支援シートの活用や、LD等通級指導教室の設置拡大等により、より多くの支援を必要とする子が通級による専門的な指導を受けることができるよう、体制を充実させるとともに、市立高校を対象とした通級指導についても同様に推進していく。

施策名	1802	子どもたちに「生きる力」を育む教育の推進
-----	------	----------------------

指標名	学力向上を支える京都市小中一貫学習支援プログラムに対する児童生徒のアンケート（3・4段階評価で概ね満足とした割合）評価値（%）
-----	---

担当課	学校指導課	連絡先	222-3801
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

京都市小中一貫学習支援プログラム（小学校：ジョイントプログラム，中学校：学習確認プログラム）の内容について児童生徒を対象に行う3段階評価及び4段階評価によるアンケート調査の評価値

2 指標の意味

生きる力の一つである確かな学力を育む教育の推進状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：京都市小中一貫学習支援プログラムについての児童生徒に対するアンケート
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	達成度
数値	92.5	89.2	3.3ポイント減	100	全ての児童生徒がアンケートで概ね満足であると評価する内容を目指す。	89.2%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	-				

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

目標はあくまで全ての児童生徒が満足と感ずること（100%）であるが、80%を達成すれば概ね達成したと評価することができる考えたため、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

平成30	令和元	令和2
a	a	a

指標名	「学校の規則を守っている」と肯定的に回答する児童生徒の割合（%）
-----	----------------------------------

担当課	生徒指導課	連絡先	213-5622
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査の設問「学校の規則を守っているか」について肯定的に回答した児童生徒の割合（中学校3年生）

2 指標の意味

生きる力の一つである規範意識を育む教育の推進状況を示す指標

3 算出方法・出典等

「全国学力・学習状況調査」の児童生徒質問紙調査

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	平成30年度	令和元年度		数値	根拠	達成度
数値	94.5	95.0	0.5ポイント増加	96.1	最新数値の年度の全国平均値	98.9%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	-				

5 評価基準

単年度目標に対する達成度が
a：100%
b：90%以上100%未満
c：80%以上90%未満
d：70%以上80%未満
e：70%未満

6 基準説明

100%をaとし、以下10%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

平成30	令和元	令和2
b	b	b

施策名	1802	子どもたちに「生きる力」を育む教育の推進				
指標名	新体力テストの結果（項目数）					
担当課	体育健康教育室		連絡先	708-5322		
1 指標の説明						
毎年本市において小学2年生・5年生及び中学2年生に対して実施する体力・運動能力調査の結果が過去10年間の平均値を上回る項目数						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
生きる力の一つである健やかな体を育む教育の推進状況を示す指標			出典：京都市立学校児童・生徒 新体力テスト結果報告書			
4 数値						
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	目標値		
数値	29	24	5項目減	数値 34	根拠 48項目の7割の項目数	
	中長期目標				備考 小2, 小5, 中2の男女, 体力調査8項目 3学年×2(性別)×8項目=48項目	
	全国順位	数値	目標年次	達成度		
数値	-					
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果		
48項目中、過去10年間の平均値と比べ、向上した項目数が a：31～48項目 b：21～30項目 c：11～20項目 d：1～10項目 e：0項目		過去10年間の平均値と最新数値を比べ、 ①体力・能力数値に際限があること ②テストを受ける対象・人数が毎年変わることの理由により、全体の項目数の約7割以上の項目数を上回ればa, 1項目も上回らなかった場合をeとし、その間のb c dを10項目ずつで按分した。		平成30	令和元	
				b	b	
					令和2	
					b	
指標名 通級による専門的な指導を受けているLD等の発達障害のある児童生徒数（人）						
担当課	総合育成支援課		連絡先	352-2285		
1 指標の説明						
LD等通級指導教室の設置拡大等により、通級による専門的な指導を受けることのできるLD等の発達障害のある児童生徒数 ※LD等の発達障害…学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラムを指す。						
2 指標の意味			3 算出方法・出典等			
発達障害のある児童生徒に生きる力を育む教育の推進状況を示す指標			出典：事業担当課調べ			
4 数値						
	前回数値 平成30年度	最新数値 令和元年度	推移	目標値		
数値	1,062	1,217	155人増	数値 850	根拠 中長期目標値(令和2年度)を段階的に達成していくために、当年度に達成すべき数値	
	中長期目標				備考	
	全国順位	数値	目標年次	達成度		
数値	-	900	令和2年度	135.2%	京プラン実施計画 第2ステージ	
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果		
目標値に対する達成度が a：70%以上 b：50%以上～70%未満 c：30%以上～50%未満 d：10%以上～30%未満 e：10%未満		国からの通級指導に対する教員定数加配に大きく左右されるため、70%以上でa、以下20%刻みで設定。		平成30	令和元	
				a	a	
					令和2	
					a	